

地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源

Agresh

2020. VOLUME.126

9

あぐれっしゅ



10周年 感謝を忘れず、
この先も共に

特集

SDGsで未来へつなぐ

「JA十和田おいらせ」の取り組み



ブランドネギ「ほげしらべ」
良質な仕上がりです。

「みんなのよい食プロジェクト」とは、
これからの日本人にとって「よい食」
とは何かを、日本の農業とJAグループ、
消費者のみなさんで一緒に考えて
考え、行動していく活動です。



腕 じ ま ん

地域じまんのモノ語り

車の窓に笑顔と弁当 ～高校生レストラン9月からドライブスルーでスタート～

県立百石高校食物調理科調理クラブの生徒が、9月からドライブスルー方式の弁当販売を始めました。8月9日、同校敷地内でプレオープンし、生徒たちは限定50食で地元産食材たっぷりの「結(ゆい)弁当」を作り保護者らに販売。本番さながらの緊張感を味わいました。

弁当は11月まで月1回、1日100食限定で販売。JA十和田おいらせはダイコン、ニンジン、ゴボウ、ナガイモなどを提供し支援します。



弁当を笑顔で手渡す生徒



「結(ゆい)弁当」は、地元の豚肉や魚、農産物を使っての7品入り。お茶・クッキー付きで1個800円(税込)



午前7時半から仕込みをスタートし、おおよそ2時間かけて50食を準備

高校生レストランの取り組みは5年目で今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、レストランでの店内提供から持ち帰りに変更。プレオープンでは1～3年生18人全員が調理にあたり、販売では車の誘導や会計、配付係など役割を分担しました。

生徒を指導する同校の大和達子教諭は「休校があり準備期間は短かったが、生徒は味付けなど何度も試作を重ね作り上げた」と弁当の仕上がりに自信を見せています。



冷めてもおいしい弁当にこだわりました。協力してくれた地域の人たちに感謝し、明るい接客も見てほしいです(岩崎昌太郎部長)

「結(ゆい)弁当」販売日時

10/3(土)・11/15(日) 午前11時～

1日限定100食で無くなり次第終了です。

受け取り場所は百石高校正面玄関入口付近。

※9月は終了しました。

f 公式Facebook
JA十和田おいらせ

■令和2年9月15日発行 ■発行/十和田おいらせ農業協同組合 〒034-0081 青森県十和田市西十三番町4-28 TEL.0176-23-0311 FAX.0176-24-1829
■編集/十和田おいらせ 広報編集委員会 ■公式ホームページ <http://www.jatowada.o.or.jp> ■Email/youmu@jatowada.o.or.jp ■印刷/アート印刷

表紙紹介

● シリーズ 日本の農業に生きる後継者 Vol.97

けいしょうびと

継承 × 人

大深内支店管内

にわ ちはる
仁和 千春さん(29)

作物のクオリティ (品質)を 高めていきたい

ブランドネギ「ぼけしらず」の収穫が7月下旬から始まり、出荷や培土の作業に忙しくする。7月の長雨の影響を受け、「収穫スタート時は細めで白根が少し短かった」と話す。最盛期を迎えた現在、日量140~150ケース(5%)出荷する。「白根部分も十分な長さで、これから太みも出てくる」と話し、作業する手に力が入る。



8月26日撮影

ネギ栽培の傍ら、水田の防除作業を担う。産業用ラジコンヘリコプターへの作業委託が年々増すなか、オペレーターの一員として防除作業を行っている。

品質を高めたい

今後の目標について千春さんは、「今は農業を継ぐためのトレーニング期間。経営や肥培管理、畑づくりと色々なことを吸収していきたい。規模拡大に目を向けるのではなく、作物のクオリティ(品質)を高めていきたい」との思いを強くする。

プロフィール…

にわ ちはる 十和田市芋久保
組合員=竹男さん(父)
家族構成:妻、子2人、両親
農業経営:ネギ2.5畝
ナガイモ4.6畝(種イモ含)
大豆1.5畝

就農のためUターン

高校卒業後、専門学校で理学療法士の資格を取得し、北海道の病院に勤務していた。患者さんの体を回復させる仕事にやりがいを感じていた一方で、地元に戻り農業を継ぐ意志を持っていたという。病院の看護師をしていた妻と長男とともにUターンし、就農4年目になる。春には、長女が誕生したばかりだ。

地域農業の担い手へ

手がける野菜栽培の管理は、両親と本人の3人でやる。作業前日には父親と段取りを決め、作業内容の共有で効率化を図る。一連の作業はこなせるようになったが、品質や形状などイメージしながら作業しても、天候などによって理想どおりにはいかないと難しさを痛感する。

告知版

企画部

JA収穫祭開催

みんなかだあ〜れ!

日時 令和2年10月17日(土)、18日(日)

両日とも 9:00~15:00

場所 ファーマーズマーケット
「かだあ〜れ」特設会場
十和田市大字三本木字里ノ沢4-1

- 催し内容 ●米・やさい・畜産物消費拡大イベント
●特産品・加工品即売コーナー
●JA事業PRコーナー
●歌謡・演芸ショー ●JA女性部舞踊、大抽選会等

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来場の際はマスクの着用をお願いいたします。また、発熱などの症状がある方は、入場をお断りさせていただきます。
※新型コロナウイルスの感染状況により開催を中止する場合がありますので予めご了承ください。

金融部

JA合併10周年記念 懸賞金付き定期貯金

抽選番号決まる!

令和元年11月1日~令和2年1月31日の期間に実施した「懸賞金付き定期貯金」の抽選番号が次の通り決まりました。当選者には通知致します。



抽選番号の読みかた

1等賞 10万円(各組共通・下4桁)

0 9 1 3

4 6 2 2 4 4 5 7

2等賞 5万円(各組共通・下4桁)

8 5 3 9 1 8 8 6 8 6 0 2
3 8 1 2 3 4 5 5 4 4 3 8

3等賞 1万円(各組共通・下3桁)

5 1 9 7 9 3 3 5 3



もくじ contents

あぐれっしゅ vol.126 9

(長月・ながづき)

特集 4~6p

SDCsで未来へつなぐ
~JA十和田おいらせの取り組み~

継承人 3p

NEWS&TOPIC

地域の話題 7~9p

協同のチカラで
組合員組織代表者に聞く
..... 10~11p

あぐれっしゅ情報① 12p

ふれあい広場
頭の体操 パズル? 13p

information 14p

腕じまん
地域じまんのモノ語り 16p
車の窓に笑顔と弁当
~高校生レストラン
9月からドライブスルーでスタート~

JAの概況 令和2年9月1日現在
正組合員数/6,423人
准組合員数/5,250人
役員数/26人
職員数(准職・嘱託含)/279人
貯金高/811億4,514万円
貸出高/177億6,875万円

金融部

ローン相談会

(本支店のご案内)

毎月第3日曜日

9:00~16:00

9月
20日
相談会場
本店、ももいし・下田
上北・むつの5店舗

10月
18日
相談会場
本店、ももいし・下田
七戸・むつの5店舗

SDGsの17の目標とJAが関連すると想定される取り組み事例

《JA十和田おいらせにおける該当する取り組みの一部を紹介》

社会 <関連するJAの取り組み>



- 組合員の所得向上
- 金融・共済サービスの提供



- 農業振興と食料の安定供給



- 福祉事業の提供
- 健康づくり
- 農福連携の推進



- 食農教育の実施



- 女性が働きやすい職場環境づくり
- 女性理事、女性総代



- 野菜残渣を再生可能エネルギーに(バイオマス発電事業)



- 地域の見守り
- 助け合い活動
- 農業を通じた環境保全など多面的機能の提供



- コンプライアンス態勢の確立



JA共済「ひと・いえ・くるま」の保障提案で人生設計をサポート



地元産食材を安定供給(産直、インショップの展開)



営農指導員による食農教育



消防団活動で地域を見守り



福祉施設で健康づくり



野菜残渣利用し発電(バイオガスエネルギーとわだ)

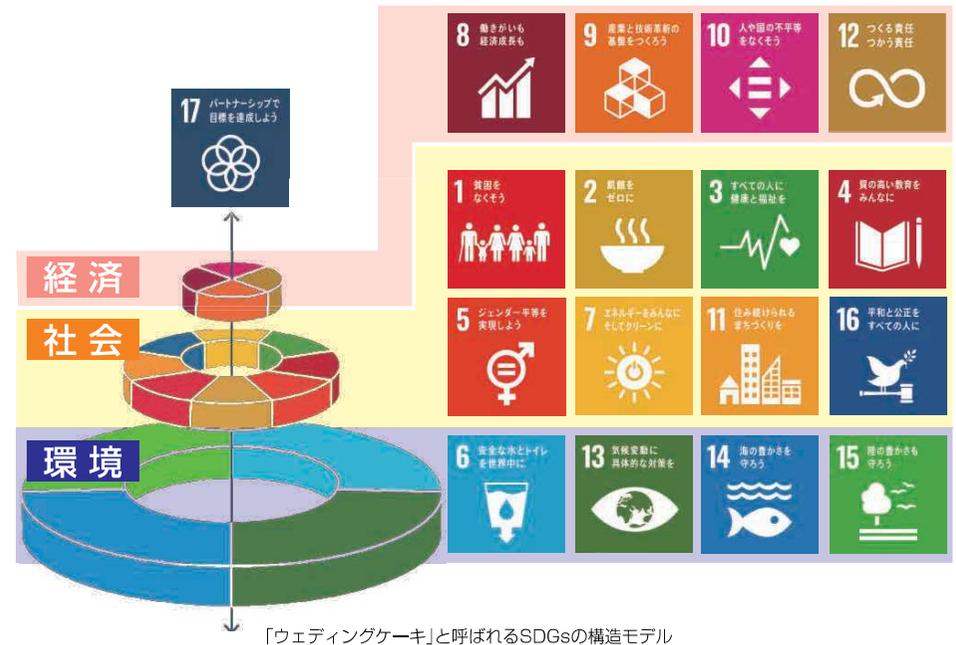
Sustainable Development Goals で

持続可能な 開発 目標

未来へつなぐ 特集

JAは「食と農を基軸とした協同組合」として、自己改革(「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性」)への取り組みを通じて、持続可能な地域農業・地域社会づくりを目指しています。今回の特集では、SDGsを紹介するとともにJA事業におけるSDGsの取り組みを紹介します。

SDGs(エスディーゼイズ)とは、人類が直面している「貧困」や「飢餓」、「環境」などの課題を認識し、「持続可能な世界」実現のために2015年9月の国連サミットにおいて採択された、開発途上国だけでなく、先進国も含めた全世界共通の取り組み目標です。17の目標を掲げ、2030年までの達成を目指して世界各国で取り組みが進められています。



SDGsが目指す17の目標は①環境②社会③経済の3分野に分けられます。①地球の環境を守りながら、②すべての人が尊厳をもって生きられる社会と、③誰もが豊かな暮らしを継続的に営むことのできる経済を実現することで、誰一人取り残さない世界を目指します。

さまざまな目標の実現に欠かせないのが、図の一番上にある「17.パートナーシップ」です。1~16までの目標は、それぞれが努力して実現できることもありますが、ともに手を携えたりしなければ実現できない難しい問題ばかりです。そこで国だけでなく自治体や団体、企業、個人などあらゆる段階でパートナーシップを緊密に結び、強力に動いていこうということが最後の目標である「17.パートナーシップ」です。

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化(地域貢献)」に向け、JA十和田おいらせは「創造的JA自己改革」の取り組みを実践中です。

生産拡大 所得増大 銘柄ネギ 「ぼけしらず」出荷目ぞろえ会～出荷目ぞろえ会～

十和田やさいセンターで8月4日、ブランドネギ「ぼけしらず」の出荷目ぞろえ会を開き、生産者70人が参加しました。長雨の影響で葉の傷みが心配されましたが、大きな被害もなく品質は良好。市場で高い評価を維持するため、JAでは選別、水切りの徹底を呼び掛けています。

首都圏の青果市場担当者は「全国的な品薄状態もあり、ぼけしらずの需要が高まっている。鮮度重視で継続的な出荷をお願いしたい」と話しています。出荷は11月下旬まで続きます。



▲出荷規格を確認する生産者

生産拡大 所得増大 「ぼけしらず」の共同選別スタート～農家の生産サポート～

十和田市の野菜集出荷センターで8月17日からブランドネギ「ぼけしらず」の共同選別作業が始まりました。農家の人手不足や労力軽減をJAがサポート。県内最大のネギ産地を維持しながら、農業所得の増大を目指します。

委託農家は14戸、面積は約62%分で、作付け規模の大きい農家の一部、JAに共選委託しています。藤坂支店管内で露地とハウスでネギ栽培をする苦米地文亮さん(47)は「皮むき機をハウス栽培用の細めに調整しているのと、人手確保も必要になるためJAにお願いしている」と話します。

同センターでの共選は10月いっぱい続きます。



▲ブランドネギ「ぼけしらず」の共同選別を行う作業員

地域活性 手洗いしっかりしてね～管内77カ所に手洗いセット寄贈～

当JAは8月下旬、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、管内77カ所の保育園・幼稚園にハンドソープと消毒用スプレーの手洗いセットを寄贈しました。「手洗いしっかりしてね」のメッセージとともに、地域担当のLAが各園へ直接届けました。

下田支店の上野翔太LAは25日、おいらせ町の本村こども園を訪問し、5才児クラスの11人に手洗いセットを手渡しました。受け取った園児たちは「しっかり手洗いと消毒をしてコロナウイルス、食中毒にかからないようにします」と声をそろえていました。



▲手指消毒セットを寄贈した上野LA

経済 <<関連するJAの取り組み>>



●農業従事者への各種支援



●農業へのICT(スマート農業など)等の先進技術の普及・促進



●外国人労働者の不当な取り扱いの撲滅



●環境負荷を軽減しながら安全な農畜産物を生産する



農家巡回で栽培指導



農福連携レベルアップ研修



各種作物の現地講習会で栽培管理指導

環境 <<関連するJAの取り組み>>



●肥料、農薬の適切利用に関する営農指導



●土壌診断等による保全
●農作物の高温障害対策
●多面的機能を有する農地の保全



●使用済農業用廃プラスチックの適正処理の促進



●土壌診断を活用した持続可能な土づくりを推める営農指導



海岸沿いのクリーン作戦



高性能土壌・堆肥診断分析器を活用した健康な土づくりを実施



肥料・農薬の適正利用を指導する営農指導員



ファーマーズ・マーケット「かだあーれ」建設。地元漁協、全国のJA産直施設等との連携で豊富な農畜産物、海産物を提供。消費者は地域農業の応援者。

協同組合はSDGsの重要な担い手として位置づけられています。17の目標を達成するためには、「協同のチカラ」が必要不可欠です。地球上のそれぞれの問題や課題を他人事とは思わずにみんなで取り組み、豊かなくらしを未来へつなごう!